

北野の天神さん てんじん —北野—

町内北野に、学問の神様といわれた菅原道真すがわらのみちざねが祭られている菅原神社がありました。

「北野の天神さん」といい、古くはたくさんの人たちの信仰しんこうを集めてきたといわれます。



平安時代、京の都で順風満帆じゅんぷうまんぱんの出世の道を歩んでいた菅原道真は、罪もないのに右大臣の地位から太宰権帥だざいのごんのそちに落とし入れようとした醍醐天皇だいてんのうに、九州へ追いやられたのでした。

そのため、道真は無念のまま生涯を閉じたのでした。

人々は、あまりにも無情なやり方の醍醐天皇にくを憎みました。

そうして、道真の死後、道真の霊れいを京都北野天満宮てんまんぐうに祭ったのでした。

ところが、生前、道真が自分の全身を彫ったという木像が、あちこちで遺品として見つかり、各地で天神さん(道真)が祭られました。





ちょうどそのころ、齋王が伊勢へ向われるとき、藤原忠通^{ふじわらのただみち}という人が、森に囲まれた北野の地を見て、京都北野天満宮によく似ているといって、自分の屋敷^{やしき}に祭っていた天満宮を、この地に移したのです。

そうして境内には、道真^{けいだい}が最も「梅」を愛したということから、葛野郡^{かどのぐん}梅津の別荘から梅の木を数株移し、「飛梅^{とびうめ}」として植えられ、別当寺梅香院^{べっとうじばいこういん}も同時に建立^{こんりゅう}されました。

明治十五年五月、久邇宮朝彦親王^{くにのみやあさひこしんのう}が伊勢神宮へ参拝のおり、数株のうちの一枝を奉呈^{ほうてい}、親王は大へん感激されたということです。

このように、菅原道真の話はいまも語り継がれ、「天神さん」と呼ばれ、また「学問の神様^{すうけい}」として、全国各地で深く崇敬されています。



伊勢街道から天満宮へ案内する道標

キーワード：みんわ、北野、天満宮、梅香院、菅原道真

この内容は、昭和52年から広報めいわに連載された野田那智子さんの「まちの民話」を掲載したもので、登場する人物・建物・その他の名称・読み方などは、原文をそのまま使用しています。